

## 2024-01 共通テスト現代文 直前チェック事項

作成者 中野 芳樹

- (1) 最初に評論や小説の分量、設問数を軽くチェック。長い・多いに注意。読解約 10 分（後の設問に含まれる資料や会話等を含む）、解答約 10 分の時間配分原則を守る。現代文大問 2 題では、最長 45 分までで解き切る努力をする。
- (2) リード文・注・設問文は、出題者からのヒント・メッセージとして重視する。とりわけ、リード文での主題の提示（～について述べられたもの、等）は重要。
- (3) 図表（絵・写真・グラフ等）・資料（短文・法令・等）・対話などは、「本文」の具体例類（具体例・引用・比喩の類）と見なし、あくまで本文との関連で捉える。なお、資料付き設問では、特定設問に答えるためだけの「資料」であるから、先に設問を確認し、「読解」ではなく、「解答探し」をすること。
- (4) 本文（資料も）の最終センテンスは重視する。読解時と、最終意味段落の設問（評論の間 5 あたり）の解答時にも再確認すること。
- (5) 設問は必ず前から解く。後の設問を解く際に、前の設問を解いた作業が有効となるケースが多い。
- (6) 一般に、選択肢の正誤判定中に微妙であると感じられたら、無理に確定しようと固執せず「判断の留保」を適切に行い、次の選択肢に進む。選択肢の途中で長くは考え込まないこと。90 秒までで解くのが原則。
- (7) 積極的に正答要件で選択肢を絞り、2 択程度で判定が難しくなったら各述部を集中的に比較する。選択肢が長い時は、選択肢後半を重点的にチェックする。
- (8) 全選択肢共通の要素（語句・構文）は正解の必須ポイント。本文でその共通要素について確認する。
- (9) 「適当でないものを選べ」では、明らかな誤り（本文との矛盾の存在）が正解要件である。微妙に思われる選択肢は消去してしまわず保留し、次の選択肢の吟味を。
- (10) 理由説明問題では、論拠型（論理的理由）か動機・意図型（心理的理由）かを識別し、また、「選択肢の述部 → 傍線部の述部」について理由としての妥当性を確認する。

- (11) 対比構造型の選択肢では、メインとサブの項のうち、メイン側の正答条件で先に選択肢を絞る。(ただし、小説の「人物像の違いの説明」だけは、主人公の人物像の正誤判定を後に回すこと)
- (12) 対話タイプの設問では、空欄があれば、空欄を傍線部のようにとらえ、空欄を含む一文自体、前後の対話とのつながり、関連する本文のKW、設問要求等に注意。
- (13) 連動型設問では、前問 (i) を必ず先に解き、それとの関係を意識して、次問(ii)を考えると解きやすい。
- (14) 「表現の説明」では、「表現の種類・タイプの指摘」(～によって、～で)の箇所と、「その表現の本文中での意味・内容の説明」(…を、…が)の箇所との説明に誤りが多い。とりわけ両者の関係の説明の誤答が多いので注意すること。
- (15) 「構成の説明」では、「主題・結論・具体例類」の説明に関する正誤判定に集中する。